広島市教育センター No.99　　平成25年７月

所報

巻頭言　子どもたちと信頼関係を築くために

プール学院大学　講師　松久　眞実

つくづく考える。教員に必要な資質とは何であろうか。子どもに対する愛情？授業力？事務能力？体力？

おそらくこのどれも必要であろう。たぶん教師という仕事を目指す人なら，「子どもが好き」という方が多いであろうが，この「愛情」については50％もあれば十分だと考える。残りの50％の資質は「己の感情をコントロールする力」である。子どもからの挑発に乗らない，同じ土俵に立たない，感情的に怒鳴らない等の感情調整能力である。かくいう筆者自身も，幾度となく子どもからの挑発に乗り，感情を爆発させたり声を枯らすほど怒鳴ったりなどの，失敗を繰り返してきた。こういう教師はいつしか子どもに見透かされ，反発されるという経路をたどる。この感情調整能力を身に付けるためには「子どもの特性に対する冷静な分析」や「自分の姿や周りの状況への客観的な認知」の向上が必要であろう。

筆者は「発達障害の子どもをつつむクラスづくり」と称して，通常の学級のクラスづくり・授業改善に，特別支援教育のユニバーサルな視点を取り入れることを推奨し，様々な学校を訪問巡回している。最近，その中で気になることは，視覚的支援や構造化など特別支援教育の視点を取り入れているのに関わらず，子どもたちが落ち着かないという学級が見られることである。そこに足りないものは，おそらく子どもとの信頼関係である。教育における「不易」の一つに「子どもたちは信頼関係のある先生の言うことは聞くけれど，信頼関係を構築できていない先生の言うことは聞かない」という現実がある。

ここで大切なことを見落としてはならない。教師への信頼や尊敬だけに依拠して，すべての子どもを指導することは不可能である。信頼関係はあっても教師が口頭だけで授業して，視覚的支援や見通しがない授業だと，子どもは理解できない。一方でいくら視覚的支援やカードを取り入れても，教師への信頼がなかったら，子どもは耳を傾けない。つまり「子どもとの信頼関係の構築」と「特別支援教育の視点からの学級経営・授業改善」，この二つは車の両輪なのである。

子どもたちとの信頼関係は，馴れ合いや甘やかしの偽りの優しさでは構築されないと同時に，威嚇や脅しで子どもを言いなりにすることでもない。キーワードは「全体指導はルールに従って厳しく，個別にはうっとりするぐらい暖かい誉め言葉をかける」。初めにルールを緩めると，立て直すのに何倍も時間がかかる。信頼関係を構築している教師は，全体指導はあくまでもぶれずに厳しいが，１対１では驚くほど誉め上手である。

「信頼関係の構築」に必要なことの一つは，前述した教員の「感情調整能力」であろう。感情にまかせて叱るのではなく「叱る基準がぶれない」「ねちねちしつこく叱らない」「毅然とあっさり叱る」等を身につけることは，発達障害のある子どもだけでなくすべての子どもたちに必要なユニバーサルな支援である。

もくじ

○ 子どもたちと信頼関係を築くために …… Ｐ１
○ サテライト研修指定校による校内研修 …… Ｐ２～Ｐ３
○ 校内研修の充実に向けて …… Ｐ４

サテライト研修指定校による校内研修

サテライト研修指定校による校内研修の工夫例を紹介します。夏季休業中，あるいは９月以降の校内研修にお役立てください。なお，４ページの校内研修充実のための参考図書もあわせてご活用ください。

1 宇品東小学校（H23･24指定校） 全員でＩＣＴ機器を活用する！

情報教育担当者が中心となって，放課後などの１０～３０分程度の時間を活用し，少人数で実物投影機の使い方やＩＣＴ環境の整備などについて，体験的な研修を随時行いました。

（１）研修サイクル

放課後など１０～３０分程度の短時間で，少人数による体験･活用を目的としたグループワークを中心に研修しました。実物投影機の使い方やＩＣＴ環境の整備等についての研修を随時行いました。

教科や学年毎に，授業の目標や児童の発達段階に応じたＩＣＴを活用した授業づくりについて検討しました。

理論研修や公開授業を行った後，教職経験年数（年齢層）別に課題の共有，改善に向けての方策について協議しました。

＜校内で共有したＩＣＴの活用場面＞

- 漢字の筆順のお手本を映す。
- 資料の注目すべきポイントを拡大して映す。
- 児童がノートに書いたことを映す。
- 用具の不適切な使い方を映し，考えさせる。
- 子どもの作品を映し，工夫した点を発表させる。

▲ＩＣＴ機器を活用した授業の様子▼

（２）校内研修の成果

ＩＣＴを活用することで，子どもたちの学習の様子を見て，その場ですぐに指導したり，評価したりすることができるようになり，教員の授業力が向上しています。

校長　小林　富夫

ＩＣＴは目的ではなく手段であるという共通理解のもと，授業での効果的な活用場面について，模擬授業形式で研修しました。全員が１０分間の模擬授業を考えるときには，教職経験年数別にグループ分けをしたことで，意見が出しやすくなりました。 今では，ＩＣＴ機器を各教室に常設し，全教科・領域等で全員が使えるようになりました。

教務主任　庄司　健一

2 比治山小学校（H24･25指定校） 子どもの実態把握！組織･個人の力量向上！

めざす子ども像を教員全員（組織）で共有した上で，教員一人一人（個人）が，子どもの細かな分析に基づく授業力の向上に取り組んでいます。

（１）組織としての取組

全国学力･学習状況調査や広島県「基礎･基本」定着状況調査から明らかになった，通過率が低い領域を中心に，子どもの状況を詳しく分析･考察し，基礎･基本の着実な定着と指導法の工夫改善を図るため，学校独自の「評価テスト」（図１）を作成･実施しています。

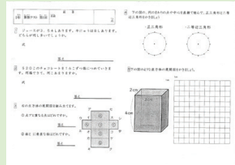


図１「評価テスト」

全員で協力して作成した６学年分の「評価問題」は，子どものつまずきの発見や支援の在り方を考える手だてであるとともに，学校のめざす子ども像を全教職員が共有するための手だてでもあります。

（２）個人としての取組

授業協議会等で同僚から得た知見を，「振り返り･計画シート」（図２）で整理し，翌日からの授業に具体的に反映させています。

図２「振り返り･計画シート」▶

（３）校内研修の成果

子どもたちの興味・関心を高め，自主的に学習に取り組む姿勢を育てたいと考えています。その取組の一例として全教員の共通理解のもと，各学年の廊下に「算数コーナー」をつくりました。

研究主任　森藤　園子

「評価テスト」を自分たちで作成し，子どもの実態を把握することで課題が明確になり，学校として「めざす子ども像」を具体化するとともに共有化を図ることができました。授業協議会では，教師の経験則に偏らず，目の前の子どもの事実をもとに協議を深めたことで，教員の校内研修に対する意識も変わってきました。「チーム比治山」となって，組織力と授業力の向上をめざしていきたいと考えています。（図３）

校長　三田　真由美

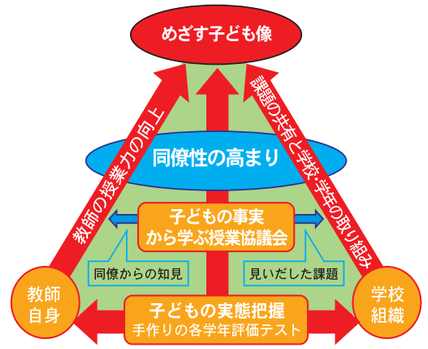


図３　子どもの実態把握から始まる校内研修

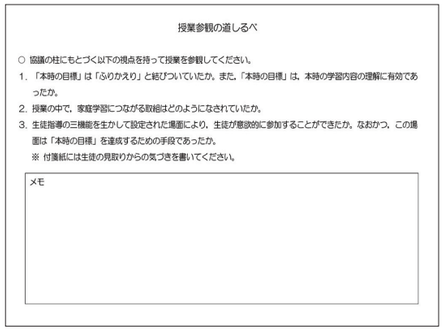
3 瀬野川中学校（H21～23指定校） 瀬野川中スタイルの授業研究の確立！

マネジメントサイクルを機能させた研修スタイルを確立し，協議会の成果と課題が日常の授業に反映するように工夫しました。

（１）研修の流れ

協議会前 → **協議会当日** → **協議会直後** → **協議会翌日以降**

「授業参観の道しるべシート」（図４）を活用し，研究主題やそれに基づいた「授業を見る視点」を焦点化･明確化し，教員間で共通認識をもって取り組んでいます。



授業参観の道しるべ

○ 協議の柱にもとづく以下の視点を持って授業を参観してください。

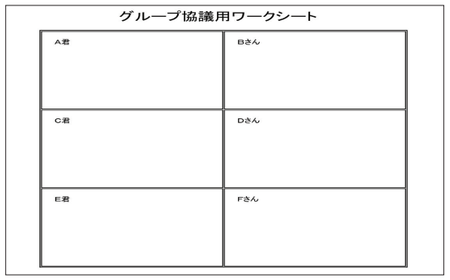
1. 「本時の目標」は「ふりかえり」と結びついていたか。また，「本時の目標」は，本時の学習内容の理解に有効であったか。
2. 授業の中で，客観学習につながる取組はどのようになされていたか。
3. 生徒指導の三機能を生かして設定された場面により，生徒が意欲的に参加することができたか。なおかつ，この場面は「本時の目標」を達成するための手段であったか。

※ 付箋紙には生徒の見取りからの気づきを書いてください。

メモ

図４「授業参観の道しるべシート」

生徒の実態をつぶさに把握し，明日からの生徒理解に生かすために，拡大した「生徒の座席表を配した協議用ワークシート」（図５）を使用しています。



グループ協議用ワークシート

A君	Bさん
C君	Dさん
E君	Fさん

図５「生徒の座席表を配した協議用ワークシート」

教員に「協議会の実施方法に係るアンケート」（図６）を実施し，協議会の振り返りを行っています。

授業研究協議会アンケート

５月２４日（金）に行った協議会について，以下の項目にお答えください。

１　そう思わない	２　どちらかといえばそう思わない
３　どちらかといえばそう思う	４　そう思う

	質　　問	回　答
1	研究会の目的や協議の柱等，研究会の趣旨を理解して参加することができた。	１・２・３・４
2	協議の柱となっている重点取組を自分自身も意識して実践している。	１・２・３・４
3	「授業参観の道しるべ」や付箋紙は授業を参観する上で役立った。	１・２・３・４
4	見取ることで，授業者としては見えなかった発見があった。	１・２・３・４
5	協議会の内容は焦点化されていた。	１・２・３・４
6	積極的に意見交換が行える雰囲気だった。	１・２・３・４
7	協議の時間は十分だった。	１・２・３・４
8	協議会で得た内容は自身の実践に役立ちそうだ。	１・２・３・４
9	協議会後，他の教員と協議内容を共有化したり，自分で振り返ったりした（したい）。	１・２・３・４
10	協議会での各教諭の役割が明確であった。	１・２・３・４

今後の授業研究会の進め方等について，ご意見等ございましたらお書きください。

５月３１日（金）までに職員室教頭席前の封筒（他校の方は受付）にご提出ください。

ありがとうございました。

図６「協議会の実施方法に係るアンケート」

協議会で得た知見を研究通信（図７）にまとめ，教員が成果や課題等を共有しています。

つっくんと愉快な仲間たち

第１回　授業研究会を終えて

図７　研究通信

（２）校内研修の成果

研究通信を中学校区内の各小学校にも配付し，本校の取組を伝えています。小中連携を意識した授業研究の活性化がすすんでいます。

研究主任　上原　賢治

授業研究に重点をおいた取組を始めて以来，本校の子どもたちの学力や授業規律は確実に向上しており，目に見えて授業研究の成果が出ています。そのことがさらに，先生方の自信につながっています。また，本校の授業研究の取組は，教員の人材育成の取組としても大いに機能しています。研究主任のリーダーとしての資質の向上，ベテラン教員の積極的な示範授業の公開，若手教員の協議会の運営等，全ての年齢層の教員が授業研究を通して成長しています。

校長　森　信吉

校内研修の充実に向けて

７月以降に招聘する講師の著書を参考図書として紹介します。教育センター図書資料室にも配架しておりますので，ぜひ参考にしてください。
また，追加申込みが可能な研修もありますので，希望される方はお問い合わせください。

書籍紹介

8/2

研修番号57
講師：プール学院大学
講師　松久　眞実
※巻頭言を寄稿していただいています。

発達障害のある子どもたちが孤立せず，自信をもって活動できるようにサポートするためには自尊感情を高めることが重要です。弁護士と教師のコラボレーションで書かれた本書は，「子どもを守る」という精神で貫かれています。

出版社：明治図書出版

7/29

研修番号42，43，45
講師：鳴門教育大学大学院
教授　村川　雅弘

「ワークショップ型の研修を始めたい。」「研修を充実させたい。」そのための研修形態や準備物，研修の流れはどのように計画すれば良いのか等々，具体的な実践例が紹介されています。それぞれのプランに実践者からのアドバイスと留意点が明記されており，校内研修を変えたい学校は必読です。

出版社：教育開発研究所

11/20

研修番号28，29，114
講師：玉川大学教職大学院
教授　堀田　龍也

「ＩＣＴの活用は難しくない。」
実物投影機の活用から始める実践プロジェクトを中心に，わかる・できる授業づくりのためのＩＣＴ活用場面の具体例や教室環境づくりなどについて，詳細に解説されています。
日々の授業が確実に変わります。

出版社：高陵社書店

8/22

研修番号8，55
講師：上智大学
教授　奈須　正裕

「学びの主体は子どもである。」という原点に立ち，新学習指導要領における「活用」「探究」「言語活動」を通して，授業づくりの要諦が解説されています。
日々の授業を改革し，授業力の向上を実感できる33の着想と実践が提案されています。

出版社：ぎょうせい

お知らせ　保護者対応ＤＶＤ

保護者対応に関する研修を実施する時に役立つＤＶＤがあります。各巻２０分程度の内容です。教育センター内で視聴可能ですので，ご利用ください。

「教員のための保護者対応力向上シリーズ」
- 第１巻：保護者対応の基本
- 第２巻：保育園・幼稚園編
- 第３巻：小学校編
- 第４巻：中学校編
- 第５巻：高校編
- 第６巻：対応の難しいケース編

題字　元宇品小学校　校長　岩村　欣治

表紙絵　仁保中学校　教頭　橋本　忍

編集・発行/広島市教育センター

〒732-0068　広島市東区牛田新町一丁目17番１号
TEL(082)223-3563　FAX(082)223-3580
E-mail:center@e.city.hiroshima.jp
外部Webページ:http://www.center.edu.city.hiroshima.jp/
内部Webページ:http://10.91.11.102/

広x6　2013　208(1)